

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|--------------|-----|--------------|
| ○事業所名 | くらすびつつkids | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2025年 2月 1日 | | 2026年 1月 31日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 23人 | (回答者数) 18人 |
| ○従業者評価実施期間 | 2025年 2月 1日 | | 2026年 1月 31日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 6人 | (回答者数) 6人 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 3月 16日 | | |

○ 分析結果

| | 事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|--|--|--|
| 1 | 独自のプログラムを作成し、個々に合わせたねらいにそった支援を行なっている | ABA(応用行動分析)を軸に独自のプログラムを作成し、スケジュールごとに作成された個々のねらいを5日ごとに見直しながら達成に導いていく、スモールステップで目標達成型の支援方針 | 職員研修の時間も出来るだけ多く作り、職員間で話し合いながらより充実した支援方針を築いていき、スキルアップに努めていく |
| 2 | 仕組み化された独自の支援方法で、職員間で統一された療育を行っている | 毎日ミーティングを行い、全ての利用児の情報を全ての職員間で共有している。 その日の支援の実践方法から達成状況までが一目でわかる独自の記録用紙を使い、全ての課題の達成状況を数値化することで誰が支援にはいても共通認識を持って取り組めるようになっている | 分かりにくいところはその都度質問しやすい環境作りを目指している |
| 3 | 職員一人一人がいつでも保護者に寄り添い、サポートできる体制を整えている。 | 毎回利用時には、保護者に対してその日の様子や成長度合い、新たに見えた課題などを伝える時間を設けている。 保護者からもなんでも話せる存在として信頼関係を作ることができ、相談しやすい環境を作っている。 定期的に面談を行うことで、素早く支援に反映させていくことができる。 | 保護者のみならず、関係機関とも連携をとっていきけるようにしていきたい |

| | 事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|--|--|---|
| 1 | 送迎サービスを行っていないので保護者が送迎をする必要がある | 療育の質に力を入れるため、送迎に費やす時間を職員間でのミーティングや勉強会の時間として支援の質を充実させている 毎回保護者とゆっくりと話す時間が取れて、お子様の情報も共有することで家庭での困り感の解消につなげている | これからも送迎を行えない分質の高い支援を提供し、保護者の方とコミュニケーションを密に取ることで、寄り添える機会を大切にしていける |
| 2 | 短時間の預かりで提供している | お勉強だけでなく遊びの時間も全てプログラムに基づいて訓練を行っている 子どもたちの集中できる時間や支援を引き出すためには短時間で手次的にトレーニングを行うことがベストである | 食事の面でのサポートを必要としている方も多いので、未就学児においては4月から時間を1時間延長し、昼食を食べるまでの支援を行っていく |
| 3 | 現在は未就学児のみの支援になっている | 未就学児と就学児では支援内容も対応方法も大きく変わってくるので、現在は枠組みを絞って運営している | 今年の4月からは小学生を対象とした放課後等デイサービスも行なっていく |